

地方公共団体名： 種子島一市二町（西之表市・中種子町・南種子町）

○提案内容:郷土愛を育む教育環境の整備

(1) 実現したい島のビジョン・方向性	
<p>島内でも高度な教育を受けられる環境を整備し、若年人口の島外への流出を抑え、将来の島を担う人材を育成する。 人材育成に関しては、単なる学力の向上だけではなく、地域への愛着や関心、地域社会の一員としてのみならず主権者としての意識、地域社会への参画やキャリアを通じた地域への貢献の意識を醸成し、島外への人口流出の抑制だけでなく、進学等で島を離れても、将来、島に戻るための郷土愛や島外からでも島を支える意識をもった、島に誇りを持った人材の育成を目指す。</p>	
(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題	課題の分類
<p>① 大学等の高等教育機関がなく、高等学校も島内に2校(県立高校)しかないため、進学に伴う15～19歳の転出が多い。令和2年度の種子島高等学校の倍率は0.56(普通科0.51、生物生産科0.40、電気科0.80)、種子島中央高校の倍率も0.68(普通科0.65、情報化0.75)となっており、前年に比べ著しく倍率が低下している。私立高校の実質無償化による影響もあり島外の私立高校への進学の影響が出てきており、また、在校生が少ないことから、チームで行う部活動ができないなどの問題もあり、島外への流出へとつながっている。さらに、高校卒業後の離島率は9割を超えている。</p> <p>② 進学により島を離れた若者が、そのまま本土で就職し、帰島しない例が多くみられる。種子島高等学校の生徒へのアンケートでも、<u>雇用先が確保された場合でも島に戻りたいという回答は、回答者の3割程度に留まっております</u>、生徒の島外志向が伺える。この背景として、生徒たちが島とのつながり感や島の潜在的な可能性を認識できなかったり、自ら主体的に島の課題に取り組むことの意義を見出せなかったりすることが挙げられる。現在、東京大学・千葉大学・芝浦工業大学と連携して種子島中学校および種子島高等学校において、島の未来を考える教育プログラムの開発が行われているが、大学側の研究資金をベースとしているため、持続的に実施できるかが課題である。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <p>交通・モビリティ エネルギー 物流 防災 観光 教育 健康・医療 環境 産業 担い手確保 人材育成 その他</p>

(3) 新技術の導入による課題解決の方向性（イメージでも可）

課題①に対して、まず高等学校の普通科の倍率低下は、島内では大学等の高等教育機関に進学するための学力の向上に不安があるものと考えられる。また、高校卒業後の離島率の高さは、大学等の高等教育機関が島内にないことに起因する。そこで、島内でも進学のための学力向上や、大学等の高等教育の受講を可能とするため、本土と変わらない(本土以上の)教育環境を整えることが必要である。その一環として、教育用のITインフラ(ネットワークインフラ、電子黒板、生徒用タブレット、GISソフトウェア等)の充実とそれらを利用した双方向の遠隔授業(高校教育だけでなく、大学等の授業も)を実施したい。種子島島内には光回線が敷設されており、基盤は整備されている。種子島中央高等学校の情報処理科や、同じ熊毛地域の屋久島高等学校の情報ビジネス科の倍率は維持できているため、離島における生徒の情報通信系へのニーズは一定程度あると考える。こうしたニーズに応えるためにも教育用ITインフラの充実が必要である。

さらに、島外への生徒の流出を抑え、島外からの生徒を確保するためには、島内の小学校・中学校・高等学校において他では経験できない機会を提供し、魅力を向上させる必要がある。島には宇宙航空研究開発機構(JAXA)の種子島宇宙センターが立地しているほか、平成26年度からは「自然と共生するスマートエコアイランド種子島」構想のもと、種子島を「学びの島」として位置付け、様々な問題解決のための最先端の研究や社会実装等を目指す日本・世界中から研究者を受け入れている。しかし、後者については島内に研究者が調査・研究に利用できる(例えば、簡易な実験やサンプルの前処理などを実施可能な)拠点が無い。そこで島内の小中高生が訪れ、最先端の科学や技術に触れたり、研究者からレクチャーを受けることが可能な交流施設を兼ねた研究拠点を整備するとともに、今後のスマート社会を見据えた5Gやsociety5.0を実現した先端的な拠点としたい。

課題②に対して、生徒たちが島の潜在的な可能性を認識し、島への愛着を高めるような教育プログラム(社会技術)が必要である。①にあるような環境整備を図り、現在進めている大学との連携によって開発される島の未来を考える教育プログラム等の社会技術としての教育プログラムを、遠隔的な支援もいただきながら、持続的に実施可能なものとしていきたい。

(4) その他

種子島一市二町は、東京大学未来ビジョン研究センターをはじめとする大学連合と包括連携協定を2020年4月に締結する予定となっており、今後、加速的にスマートアイランドの実現を目指していく準備が整っている。ただ、大学の研究活動だけでは地元への定着が十分ではない。地方自治体として、地域内外の産業と連携して、持続的な地域システムを築くための基盤を整備していきたい。

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先（電話及びメール）

部局名	担当者	連絡先（電話）	連絡先（メール）
西之表市経済観光課 中種子町企画課 南種子町企画課	横山 義之 永濱 次則 石堂 裕司	0997-22-1111 0997-27-1111 0997-26-1111	shoukou@city.nishinoomote.lg.jp naka-kikaku@town.nakatane.lg.jp kaihatsu1@town.minamitane.lg.jp